

2024 年度事業活動報告

2025 年度事業計画



特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

～ ご挨拶 ～

日本において、肢体不自由の子ども達は10～30万円もする高価で高性能の車椅子に乗ることができます。90%もの公的補助金が出るお蔭で、肢体不自由児を抱える多くの親は、軽微な自己負担で済むのです。私自身も障害児をもつ親の一人として、この恵まれた環境に大変感謝しています。



ところが、子どもが成長すると車椅子は相対的に小さくなり、2～3年で乗り換えねばなりません。そうして高価な車椅子は、廃棄処分の運命におかれるのが現状です。私の子どもは脳性麻痺ですが、こうした買い替え時期を迎えるともったいなくて壊れてもいない子ども用車椅子を捨てることができず頭をかかえていました。捨てるには車椅子の状態があまりに良いのです。

日本では捨てられてしまう運命の車椅子は粗大ごみ扱いでしょうが、海外の肢体不自由の子どもにとっては宝物です。家から出ることができない生活に苦しんでいる子ども達を一人でも救い、自由に動き回れる移動手段を提供したいと思います。高価な車椅子に乗ることは彼等にとっては夢のような話なのです。障害のある子ども達が車椅子を手に入れて行動範囲を広げ、地域の人々と広く交流し、お互いの理解を深めて豊かな人生を送って欲しいと願っています。

どうか、多くの方々にこのような日本と海外の現状をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。体を動かせない子ども達にとっての「夢の乗り物」、これが子ども用車椅子です。私は一台でも多くの子ども用車椅子を日本から送り出し、彼らの笑顔を見てみたい、そのような姿を頭に描きながら、力の限り日々活動に取り組んでいます。

会長 森田 祐和

2024 年度事業報告

はじめに

2024 年度の大きなトピックは、2024 年 6 月に活動開始 20 周年を迎え、車椅子贈呈総台数 1 万台を 2024 年 11 月に達成したことです。2 つの記念すべき数字を同時に達成できたことは意義深いことであり、当会を支援してくださる多くの皆さんに改めて感謝を申し上げます。

2024 年度の子車椅子の収集は、430 台と例年並みでした。継続的に特別支援学校の PTA の役員の皆さんや学校の先生方の支援があり実現できています。このネットワークは、当会が持つ独自のものと思います。当会の活動の源泉であり、車椅子を入手できなければ活動はできません。

車椅子の整備・清掃を行う例会活動については、その開催回数は 17 回を数え、参加者の人数は延べ 520 人でした。常連は相模女子大チームとベトナムチームです。加えて、2024 年度は多摩工科大学の先生と生徒 10 人以上の参加が定着しました。主に梱包作業で大活躍でした。

また、米軍横田基地の皆さんを迎えての活動も行いました。過去にも横田基地の軍人さんを迎えて活動したことがありましたが、今回も 4 回ほど開催することができました。彼らは世界中の基地を転々とするために、活動に継続して参加できる期間が短いです。しかし、そのパワーは、素晴らしく、清掃・整備に対する理解力や、よりきれいにする工夫、整備力など、感心することばかりでした。

彼らとのコミュニケーションは英語が基本です。相模女子大チームメンバーは「英語の勉強になる」と積極的に参加して交流していました。

2024 年度の贈呈台数は、329 台（前年比 79%）にとどまりました。理由は、車椅子を受け取る当会の海外パートナーの事情が考えられます。主なものとして輸入規制問題があり、過去には受け入れ可能だった国が規制で送れなくなっていることです。また、条件が厳しくなっている国もあります。

そんな中で、モンゴルには当会単独で 107 台を送ることができました。同国には、これまでは他の団体と協同で送っていましたが、初めて単独で送ることができました。この実現に当たっては、現地で活動する JICA 海外協力隊員（O 氏）の大きな支援がありました。また、戦争下にあるウクライナにも台数が 15 台と少ないながらも送ることができました。

2024 年度の収入は、前年度と同様に企業から大口の寄付がありました。このことで当会の財政基盤が継続して安定したものとなっています。一方で、一般の小口寄付金の額が前年比 64%と低調でした。これには、活動の周知をより広く行い支援者を増やす必要があります。

1. 車椅子収集事業

肢体不自由児が通う特別支援学校や療育施設などの保護者や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、今年度は「首都圏の特別支援学校」から 314 台の提供を受けました。個人からの提供も含めて 2024 年度的全収集台数は 430 台で、前年比ほぼ 100%でした。

車椅子の収集台数

都・県 (学校数)	2021 年度 (学校数)		2022 年度 (学校数)		2023 年度 (学校数)		2024 年度 (学校数)	
東 京 (24)	178 台	(14)	100 台	(11)	144 台	(11)	115 台	(9)
神奈川 (25)	159 台	(11)	48 台	(6)	75 台	(8)	83 台	(8)
埼 玉 (11)	105 台	(6)	58 台	(4)	71 台	(5)	46 台	(6)
千 葉 (10)	73 台	(4)	86 台	(5)	49 台	(3)	70 台	(5)
小 計 (70)	515 台	(35)	292 台	(26)	339 台	(27)	314 台	(28)
その他学校、団体等	12 台	—	13 台	—	35 台	—	67 台	—
個 人	32 台	—	35 台	—	38 台	—	29 台	—
総合計 (前年比)	559 台	(172%)	340 台	(61%)	412 台	(121%)	410 台	(100%)

(「小計」は首都圏の特別支援学校からの提供台数 学校数は 2025 年 3 月現在 全国障害学生支援センター特別支援学校一覧より)

2024 年度の「首都圏エリアの特別支援学校」からの車椅子の提供台数は、314 台で前年比 93%でした。都県別では、東京都と埼玉県が減少し神奈川県と千葉県が伸びることができました。また、提供学校数はほぼ横ばいの結果となり、支援学校の皆さんが継続して当会を支援してくださっていることがわかります。

首都圏以外の学校や一般の団体及び個人からの提供は、96 台となり前年比 132%と伸びました。今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。

(提供方法は当会のホームページをご覧ください <http://kaigaikurumaisu.org/>)

○車椅子収集の様子

2024 年度は、5 校の引き取りの様子取材することができました。取材を通じて、PTA の役員の皆さんや支援学校の先生方との情報交換を行いました。「この車椅子はどこに送られるのですか」「モンゴルの予定です」などのやり取りで双方の理解を深めることができました。

<横浜市立若葉台特別支援学校（横浜わかば学園）>

36℃超えの猛暑の中に引き取りに伺いました。PTA の役員の皆さんと学校の先生方が集まって車椅子の引き渡しを手伝ってくれました。車椅子 10 台、バギー 2 台、歩行訓練器 6 台、立位訓練器 5 台、バスチェアー 1 台を引き取りました。同校は、2018 年以来連続して車椅子の提供があります。引き取りに際していつも思うのは、PTA の役員の皆さんと先生方の連携のすばらしさです。この連携があることで、毎年途切れることなく当会への車椅子の提供が続いているのだと思います。(引き取り日：2024 年 7 月 30 日)



若葉台特別支援学校と記念撮影です。

<東京都立鹿本学園>

秋晴れの日、東京都の東部に位置する都立鹿本学園から10台の車椅子と2台のバギーの提供を受けました。PTA役員の皆さんが車椅子のトラックへの積み込みを手伝ってくれました。

同校からの車椅子の提供は2019年からで、今年で6年目です。当会の活動を支えているのは、このような特別支援学校からの継続した車椅子の提供です。PTAの役員の皆さんや先生方の支援により実現しています。PTA役員の皆さんは、ほとんどが数年で交代します。それにもかかわらず役員間での引継ぎが確実に行われ、当会へ車椅子の提供をしてくれます。本当にありがたいことです。(引き取り日：2024年11月26日)



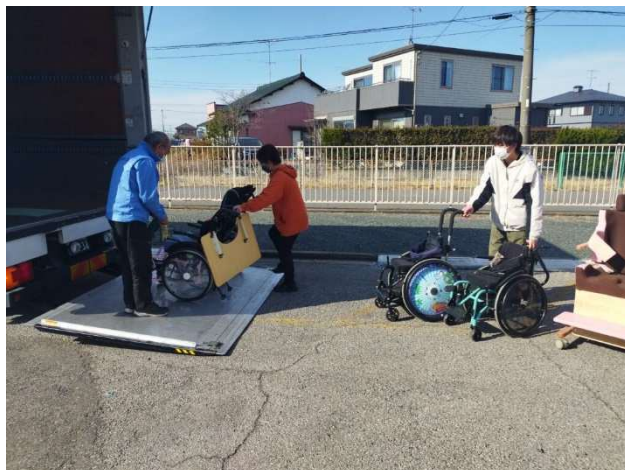
鹿本学園の皆さんと記念撮影です。

<埼玉県立越谷特別支援学校>

12月もかなり押し詰まった26日に車椅子5台、バギー3台、座位保持2台、を引き取りました。同校からの車椅子の提供は、2019年の37台の引き取り以来となりました。コロナ禍が影響して、しばらくお休みとなっていました。

年末のためか道路の混雑でトラックの到着が遅れましたが、到着するとあっという間に積み込みが終わりました。PTA役員の方からは、今後収集依頼をするときは、近隣の支援学校とも連携してできるだけ台数を多くできるように頑張りますと力強い言葉をいただきました。引き取り経費も高騰していて、まとめて引き取ることができれば経費削減になります。

(引き取り日：2024年12月26日)



越谷特別支援学校での収集の様子です。

＜埼玉県立日高特別支援学校＞

松飾りが取れて間もない1月15日に、21台の車椅子等を引き取りました。幸いにも好天に恵まれ、短時間でトラックに積み込むことができ、拝島にある当会の倉庫に運び込みました。

学校に到着すると、先生とPTAの役員の皆さんが車椅子を校庭に並べて待っていてくれました。車椅子は体育館奥の倉庫に保管されていたようで、状態も良好でした。このことは、当会にとっても重要なことです。状態の良好な車椅子は、清掃・整備に手間がかからず新品同様の状態で送ることができるので受け取り手からも喜ばれます。状態保持に配慮してくれる学校の先生方やPTA役員の皆さんに感謝です。引き取った車椅子の中に、珍しいスポーツ用の車椅子が2台ありました。このスポーツ用車椅子は、子どもたちにスポーツをすることの喜びを提供してくれることを期待してパキスタンのパートナーに送りました。(引き取り日：2025年1月15日)



(左) 日高特別支援学校のPTAの皆さんと先生です

(右) 珍しいスポーツ用の車椅子です。パキスタンに送りました。

○2024 年度に車椅子を提供して下さった支援学校

横浜市立若葉台特別支援学校、横浜市立上菅田特別支援学校、横浜市立北綱島特別支援学校、埼玉県さいたま市立ひまわり特別支援学校、埼玉県立越谷特別支援学校、山梨県立甲府支援学校、埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校、神奈川県立鎌倉支援学校、東京都立鹿本学園、埼玉県立日高特別支援学校、神奈川県立座間支援学校、神奈川県立小田原支援学校、神奈川県立相模原中央支援学校、神奈川県立平塚支援学校、千葉県立桜が丘特別支援学校、千葉県立松戸特別支援学校、千葉県立船橋夏見特別支援学校、千葉県立船橋特別支援学校、千葉県立長生特別支援学校、東京都立小平特別支援学校、東京都立村山特別支援学校、東京都立多摩桜の丘学園、東京都立町田の丘学園、東京都立八王子東特別支援学校（24 校：順不動）

上記以外の一般企業や福祉団体、個人からの車椅子の提供もありました。

2. 車椅子整備事業

2024 年度は、コロナ禍はほぼ影響が無くなり通常の例会開催ができました。例会の開催数は、17 回、活動参加者延べ人数は 520 人（前年比 94%）でした。また、延べの整備完了台数は 261 台（前年比 106%）でした。この状態は、コロナ禍前の状態にほぼ戻ったと言えます。

2024 年度における例会の月別開催状況

開催月	2024 年									2025 年			年間 合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
回数	3	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	16
参加者数	78	26	25	25	27	30	62	34	39	54	74	46	520
整備台数	31	20	16	10	14	17	35	27	10	23	44	14	261

4 月、10 月、2 月の複数回開催は、横田基地のみなさんや当会を支援してくれている企業の皆さんをお招きした臨時の例会を含んでいます。企業の皆さんからは、こうして経済的な支援とともに車椅子の清掃・整備での支援もいただいています。

<今年度の整備例会の特徴>

例会活動は、相模女子大チーム、ベトナムチーム、多摩工科高校チームが大活躍でした。特に 2024 年度は、多摩工科高校チームの先生と生徒さんが 10 人以上で参加して、梱包作業を行ってくれました。その他の多くの皆さんの参加を得て、延べ参加人数が昨年と同様の 520 人となりました。

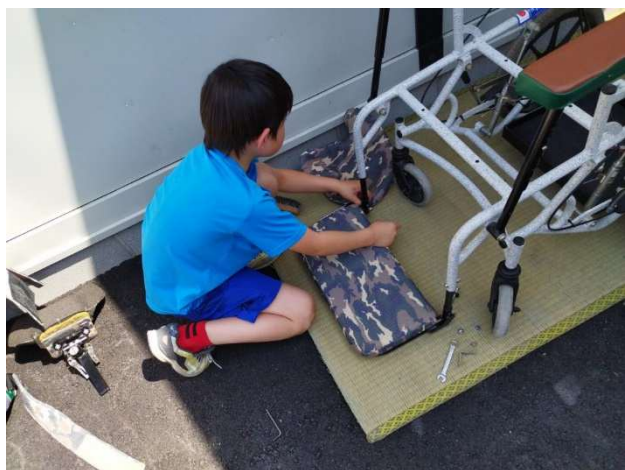
活動における暑さは、昨年と同様です。4 月の例会から、タープやテント、そして冷たい飲み物が必須でした。9 月の例会では 40℃超えの環境となり、作業を継続できるか不安なこともありました。幸い、年間を通じて病人やけが人を出さず活動ができたことは何よりでした。

4 月から 4 回に渡って横田基地メンバーの皆さんを迎えました。残念ながら参加は短期間で終わってしまいましたが、横田基地の見学なども実施されて、相模女子大学チームを中心に日米の国際交流をすることができました。

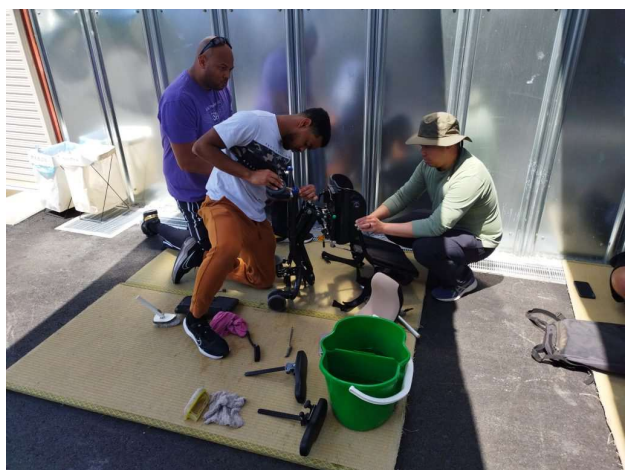
＜整備作業の様子＞



暑さ対策に不可欠なタープ（左）とテント（右）です。



子どもたちも作業に参加しています。子どもたちの明るい声が会場に響き渡りにぎやかです。



（左）横田基地の皆さんが参加してくれました。技術的な理解が速く、パワーがありました。

（右）車椅子の梱包は不可欠です。梱包しないとコンテナの中で複数の車椅子のキャスターなどが絡んでしまい、取り出せなくなるのです。通常は、「プチプチ」と言われる梱包材を使いますが、その使用量が多いので、受け取り手のゴミが大変な量になります。そこで、梱包材に古毛布を試しています。古毛布を捨てずに再利用をしてもらう作戦です。



テントの下に作業台を作ってその上で作業を行いました。座っての作業より楽だと好評です。台に載せられる車椅子のサイズが限られるために全面的に採用することはできていません。



(左) エチオピアチームリーダーのアベベさんです。エチオピアチームは、毎回会場に一番乗りして会場設営を手伝ってくれます。そしてすぐに整備作業にかかります。

(右) 常連の相模女子大学チームも毎回参加で頑張っています。



多摩工科高校の皆さんが梱包でパワーを発揮です。3チームを編成し、先生方の指導・助言を受けて次から次に梱包作業を進めていきます。



- (左) テント下で作業をしているベトナムチームです。毎回 10 人以上の参加者があり、パワフルです。
同チームは、ベトナム料理である「フォー」を振舞ってくれることもあります。
- (右) ネパールチームの皆さんです。ネパールに送る計画があることを知り、ネパール出身の友人に声をかけてくれました。



通常の例会に日興アセットマネジメント株式会社の皆さんが来てくれました。家族での参加です。



当会を財政面で大きく支えてくれている MFS マネジメント株式会社の特別ゲストがありました。
米国 M F S 本社のチャリティー部門の責任者である同社の Corporate Citizenship Director とその

夫のお二人です。活動に参加して「当会の様な活動は非常に珍しく、同様の活動は見たことがない、素晴らしい。」という感想をいただきました。（記念TシャツをDirectorに贈りました）



CMA CGM JAPAN K.K. の皆さんです。2023 年 12 月以来 14 人での活動参加となりました。



昭島中央ロータリークラブの皆さんが活動に参加です。同クラブは、例会での活動参加に加えて、寄付金で当会を支えています。また、現地での贈呈式にも参加しています。



(左)「JICAから貴会を紹介されました。ウクライナに車椅子を送ってもらうことはできますか」という手紙が届き、15 台を臨時の例会で準備して送りました。依頼をしてきたご夫婦も家族で

作業に加わってくれました。

- (右) ベトナムチームのメンバーの一人の子どもさんが車椅子を必要としていると相談がありました。日本に暮らすベトナム人として日本の支援を受けられますが、車椅子の入手までに1年以上がかかるということです。幸い、最適な車椅子が見つかり、正規ルートでの車椅子入手ができるまで貸し出しをすることにしました。(前ページの説明です)



今年度も酷暑の中での例会開催が多くなりました。気温にも注意を払いながら、水分補給を心がけての作業でした。この日は38℃超えでしたが、40℃超えの日もありました。



- (左) アベベさんが、参加者にエチオピアカレーを振舞ってくれます。カレーパウダーは祖国エチオピアから取り寄せたものです。
- (右) ベトナムチームは前日から仕込んだ材料で本格的なフォーをふるまってくれました。フォーは最も代表的なベトナム料理です。みんなで美味しくいただきました。



当会の調理担当のそらさんチームは、毎回様々な昼食を用意してくれます。メイン料理以外に、サラダやデザートもあります。参加者が「今日の料理、デザートは何だろう」と楽しみにしています。



毎年恒例の餅つき大会です。整備作業班と餅つき班に分かれて同時に作業です。

3. 車椅子発送事業

2024年度は、4か国に329台を送ることができました。2025年3月にはネパールへの発送を計画していましたが、米国の関税問題のあおりを受け海上輸送が混乱したために年度内に発送することができませんでした。329台の車椅子のうち、整備済みが205台（全体に占める割合は62%）、未整備は124台（全体に占める割合は38%）となり整備済み比率を3%上げることができました。これも毎回の例会に参加してくれるボランティアの皆さんのおかげです。

2024年度寄贈実績（2024年4月～2025年3月まで）

パキスタン(*)	2024年	6月	42台	マイルストーン特別な人のための協会
フィリピン	2024年	12月	83台	JVR財団(Jesus V. Del Rosario Foundation)
モンゴル	2024年	12月	107台	Universal Progress 自立生活センター
ウクライナ	2024年	12月	15台	Misto Dobra (City of Goodness)
パキスタン(*)	2025年	1月	82台	マイルストーン特別な人のための協会
合計			409台	

(*) パキスタンには車椅子を未整備のまま送付しました。贈呈した車椅子409台のうち、124台は未整備のままパートナーに送りました。一台でも多くの車椅子を海外に届けるために、自前で清掃・整備作業を行うことができるパートナーには未整備で送っています。

<フィリピン Jesus V. Del Rosario Foundation 財団（JVR財団）への発送>

2024年6月17日、フィリピンのパートナーであるJVR財団(Jesus V. Del Rosario Foundation)に向けた車椅子等83台を積載した本船が東京港を出ました。車椅子（52台）、バギー（10台）、歩行訓練器（10台）、立位訓練器（5台）、座位保持装置（3台）、カーシート（1）、ストレッチャー（1台）、バスチェアー（1）を積みこんでいます。7月7日にフィリピンのマニラ港に到着の予定です。

フィリピンのパートナーのJVR財団は、当会からの車椅子等を様々な施設に配布しています。そのため、歩行訓練器やストレッチャーなどの特殊機器も病院などで活用されることになります。



フィリピン向けコンテナ積み込みの様子です。



フィリピン向けコンテナ積み込みの様子です。

＜モンゴル Universal Progress Center（自立生活センター）への発送＞

2024年11月29日、モンゴルの「Universal Progress Center 自立生活センター」（代表 アンドラフバヤル氏）に向けた車椅子を積載したコンテナ船が東京港を出ました。同国へは、これまで他の国内団体との共同での発送がありました。しかし、今回は当会単独でのプロジェクトです。このプロジェクトの始まりは、5月27日に神戸市で行われた、贈呈先の代表であるアンドラフバヤル氏と森田会長との面談です。面談の目的は、当会が考える子ども用車椅子の子どもへの供与と、その管理方法についての意識合わせでした。大人用車椅子とは異なる管理が求められる子ども用車椅子の取扱いについて意見交換をして、本年内に90台の子ども用車椅子を送る約束をしました。今回、その約束が実現したわけです。

モンゴル向けの整備活動は、2024年6月に始まりました。107台の整備が完了したのは11月10日でした。車椅子に加えて、さまざまな器具も同梱しました。ヘッドギアや補装具など、子どもたちに必要と思われるものを同梱しました。2025年1月末の極寒のウランバートルに届いた車椅子他は事前に立てた配布計画でモンゴル全土に配布されたとのこと。贈呈式は4月18日の予定です。



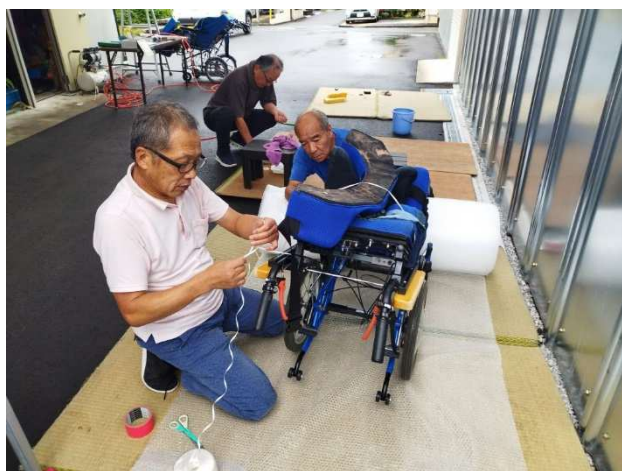
モンゴル向け積み込みの様子です。



モンゴル向け積み込みの様子です。

＜ウクライナ 「Misto Dobra」 (City of Goodness) への発送＞

当会からの車椅子15台と日本全国からのウクライナ向けの多くの支援物資を積載したコンテナ船は、2024年12月31日の早朝に東京港を出ました。2025年2月頃にポーランドの到着し、そこからウクライナに運ばれます。受け取り手の「Misto Dobra」は、困難な生活環境に置かれている女性や子ども、暴力に苦しんでいる家族、緩和治療やリハビリテーションを必要とする子どもたちを保護し、複合的な支援を行う場所として2016年に設立されました。現在は、戦争により疎開を余儀なくされた子どもたちの支援も行っています。



ウクライナ発送のための臨時の例会開催を呼びかけ、15台の車椅子の清掃。整備を行いました。



ウクライナへの当会からの15台の車椅子は木箱に入れられて、コンテナに積み込まれました。コンテナーは、当会からの車椅子以外に日本全国からの支援物資で満杯でした。ウクライナへのコンテナ積み込みは、日本に長く住むウクライナ人夫妻によって行われました。

4. 2024年度のトピックス

○20周年1万台贈呈達成記念Tシャツ

当会は2004年6月に任意団体として車椅子贈呈活動を開始しました。マレーシアに16台の車椅子を送り、以来、20年間にわたり、26か国の海外の子どもたちに1万台以上の車椅子を届けてきました。当初は、どれだけの車椅子を送ることができるか不安でしたが、多くの皆様のご理解と支援があり、20年間で1万台を達成することができました。それを記念してTシャツを作製しました。活動中に作成した記念Tシャツを紹介し、希望者に配布しました。早速、ベトナムチームの皆さんが着てくれました。



○ソロモンからの留学生に車椅子を手渡し

2024年6月2日にソロモン諸島（英: Solomon Islands、南太平洋のメラネシアに位置する立憲君主制国家。首都はガダルカナル島にあるホニアラ）から京都大学に留学している女性（Sさん）から、「障がいのある弟のために車椅子を提供してもらえないか」と当会のホームページに問い合わせがありました。「基本的に車椅子を提供することは可能ですが、日本からソロモン諸島までは、あなたご自身で運んでもらえますか。」と回答し、渡しました。



5. 活動広報事業

当会の贈呈先での活動の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を発行しています。2024 年度も 2 回（第 31、32 号）の発行を行いました。

当会のホームページでは、活動の様子をタイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。 <http://www.kaigaikurumaisu.org>

さらに、当会の事業内容を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しています。当会の考え方に始まり、具体的な活動内容について写真や図を使い説明しています。冊子が必要な方は事務局へご連絡ください。 hp-admin2@kaigaikurumaisu.org

冊子の内容はホームページ「フリー ペーパー」にも掲載しています。ダウンロードして印刷することも可能です。

6. 財務状況について

当会は、運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集しています。収集した車椅子を整備し、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1 台平均約 1.4 万円かかります。その費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金、民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

2024 年度の当会の財務状況

2024 年度も、特定企業からの大口支援がありました。過去から継続して当会を支援してくれている米国系金融関連企業です。その寄付金は、当会の 2024 年度収入の 48%に達します。これは非常にありがたく、当会の活動を安定して運営することができています。しかし、この企業からの支援が途絶えてしまうと、活動費用が半分以下に抑えられることになります。また、2024 年度の総収入は前年比 87%に終わっています。

これは当会の収入面での課題を浮き彫りにしています。より多くの支援者を集めて一極集中になることを避ける必要があります。

一方で、事業費の支出面では、前年比 110%となりました。その理由は下記の 2 点と考えられます。

- ① 車椅子整備費用が増え、前年比 185%となっています。2024 年度は、倉庫前の舗装工事を行ったために費用が大きく増加しました。しかし、このおかげで作業効率が大きく向上しました。
- ② 車椅子が順調に入荷してくる一方で、倉庫スペースの不足により活動拠点の倉庫だけでは足りないため複数の倉庫代負担となりました。今後は、コストをあまりかけずに倉庫スペースの確保ができることが必要です。

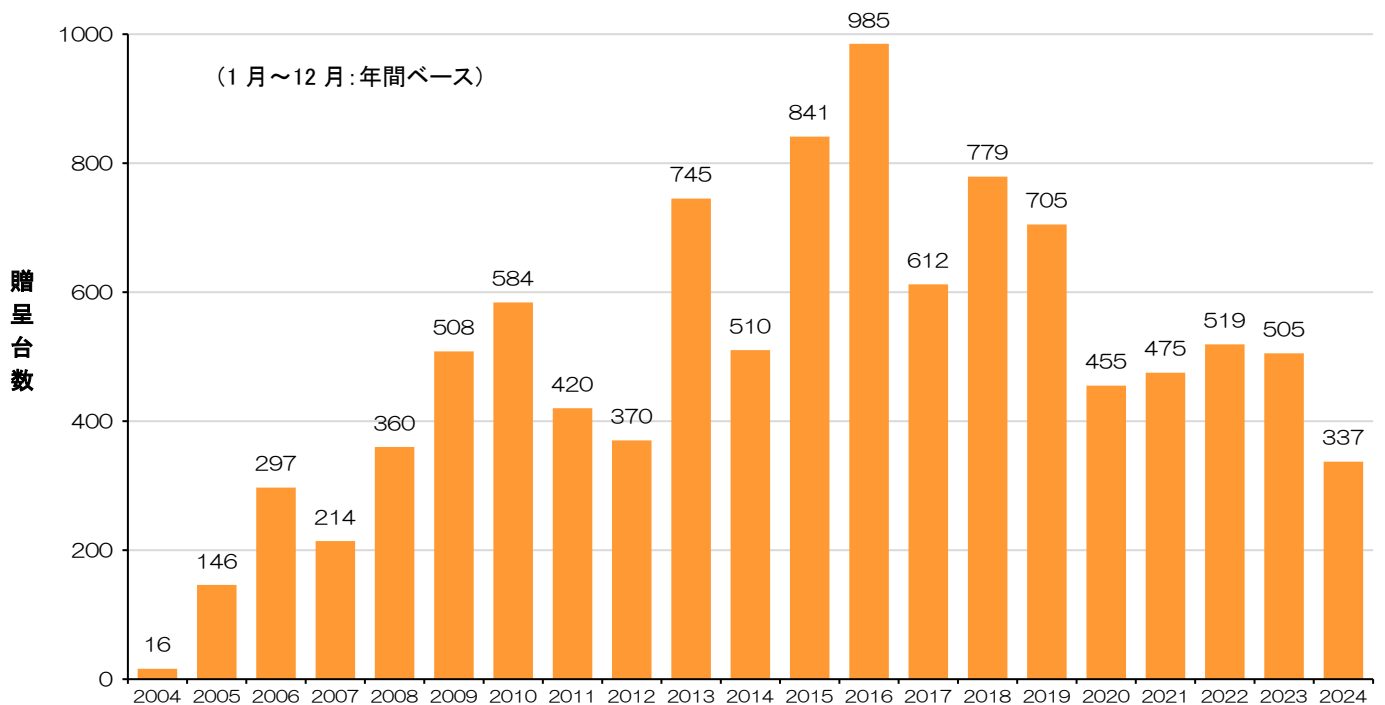
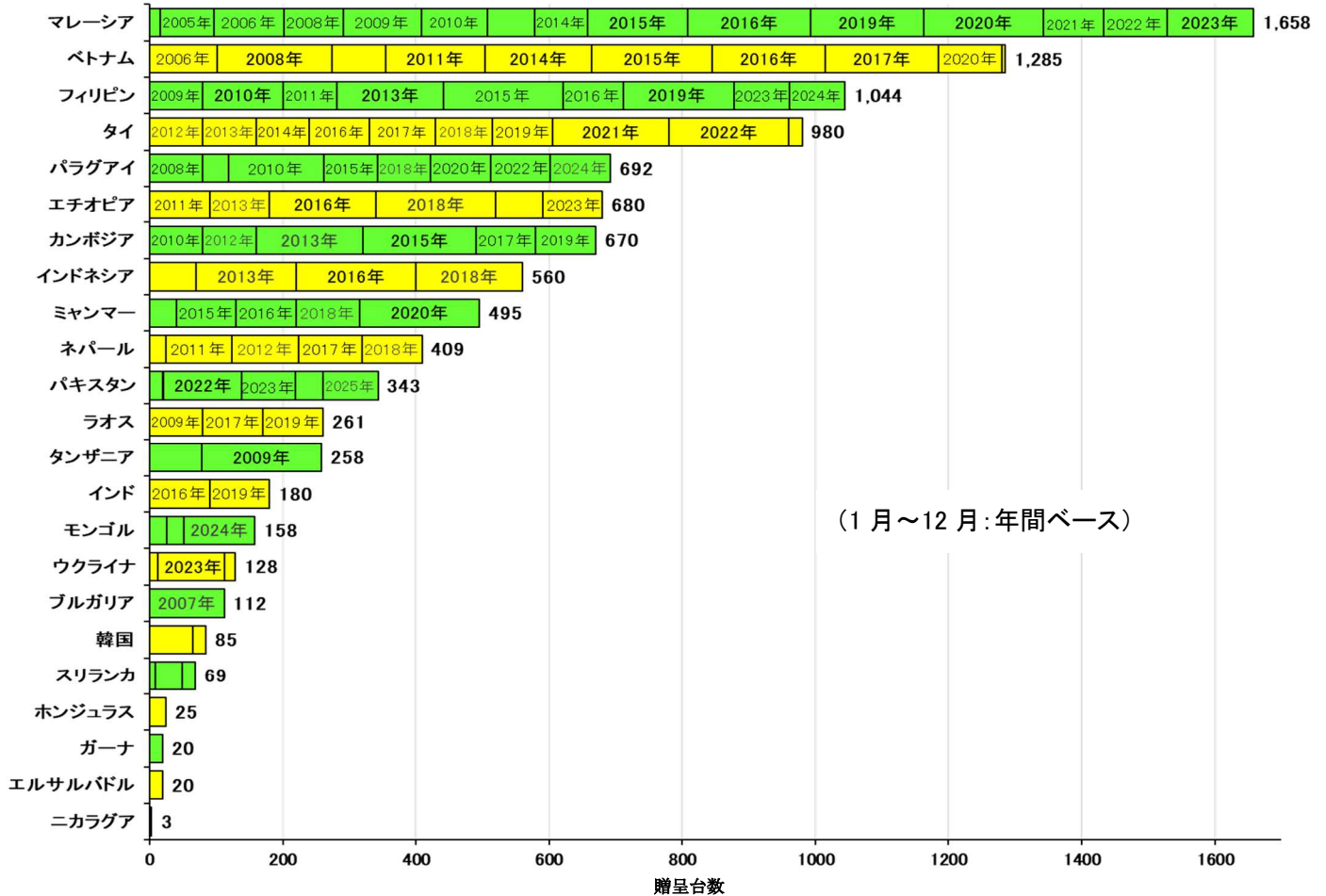
車椅子の発送面では、前年比 82%とその費用を抑え込むことができましたが、これは当初計画の 2024 年度発送が未達成のためでした。海運事情がより複雑化しています。



NPO 法人

海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 26 ヶ国 10,135 台 (2025 年 3 月末現在)



2025年度 事業活動計画

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校の定期的かつ継続的な収集協力を得て、昨年度以上の台数確保を目指す。ただし、当会の倉庫の車椅子収容台数には限界があるので、在庫を見ながら収集を行う。収集目標は、450 台（前年実績比 105%）以上を目指す。

2. 車椅子整備事業

- ・常連チーム（相模女子大チーム、ベトナムチーム、多摩工科高校、等）を中心として、1 回／月の開催を継続して開催する。
- ・1 回の例会での整備完了目標台数は 20 とする。そのために必要なボランティア人数を確保する。
- ・これまで個別の例会開催の実績がある企業に声をかけて、その企業の特別例会の開催も企画する。

3. 車椅子発送事業

- ・2024 年度は、前年比 71%の 329 台の発送となった。それを盛り返すために 400 台を目指す。そのうちの整備済みは 250 台を目指す。贈呈国数は 4～6 か国とする。
- ・年間の海外発送回数を 4 回以上として、それを目指す。

4. 活動資金確保活動

2024 年度も大手企業の厚い支援により財政状況はかなり豊かになったといえる。しかし、2025 年度は、安定した基盤とするために「より広く」の考えで、支援者を継続して増やすことを心がける。出費を抑え込むことにも注力する。

- ・広報活動の拡充による会員数の増加を図る。
- ・新たな民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す。

5. 活動拠点改善事業の取り組み

車椅子収容スペースの拡充

現在の倉庫の車椅子収容能力は 200 台程度である。この能力では、車椅子回収依頼が集中する春休み、夏休みなどでは倉庫がすぐに満杯となり、収容不能となる。こうした事態を避けるために現在の倉庫の拡張や新たな倉庫の確保を検討する。

6. 活動広報事業

- ・「活動レポート」は年間で昨年度と同様 1～2 回、または 3 回の発行を目指す。できれば以前のように 4 回／年間の発送を目指す。
- ・ホームページではタイムリーなお知らせやトピックスにより当会の活動の様子を周知する。

本年度も、一台でも多くの子ども用車椅子を海外の子ども達に届けたいと思います。
皆様のご支援をよろしくお願いします。

過年度実績と2025年度収支計画（4月1日～3月31日）

（単位：円）

項 目	2023年度		2024年度		2025年度	
	実 績	前年比	実 績	前年比	計 画	前年比
前年度繰越金	10,363,372	107%	11,306,743	109%	10,310,699	91%
収入の部						
会費収入	256,000	93%	288,000	113%	300,000	104%
公的助成金収入						
民間助成金収入	4,378,736	142%	4,916,835	112%	3,500,000	71%
寄付金収入	4,967,310	189%	3,188,768	64%	2,500,000	78%
利息収入	73	118%	3142	4304%	100	3%
雑収入						
収入総額	9,602,119	160%	8,396,745	87%	6,300,100	75%
支出の部						
1. 事業費						
車椅子収集事業費	1,609,011	145%	1,571,253	98%	1,500,000	95%
車椅子整備事業費	1,825,597	140%	3,373,317	185%	2,800,000	83%
車椅子発送事業費	4,459,125	232%	3,643,687	82%	3,500,000	96%
活動広報事業費	256,455	56%	406,062	158%	400,000	99%
事業費合計	8,150,188	170%	8,994,319	110%	8,200,000	91%
2. 管理費						
事務消耗品費	34,950	114%	19,546	56%	20,000	102%
消耗品費	18,049	127%	11,469	64%	10,000	87%
水道光熱費						
旅費交通費	100,106	271%	122,395	122%	50,000	41%
支払手数料	30,548	79%	27,248	89%	30,000	110%
交際費	70,730	1665%	40,460	57%	30,000	74%
支払保険料	67,200	76%	67,810	101%	70,000	103%
通信費	34,802	68%	51,848	149%	50,000	96%
複写費	88,484	1954%	5,225	6%	10,000	191%
会議費	37,591	207%	50,536	134%	30,000	59%
諸会費						
雑費	26,100	13%	1,933	7%	0	0%
管理費合計	508,560	105%	398,470	78%	300,000	75%
総支出額	8,658,748	164%	9,392,789	108%	8,500,000	90%
次期繰越金	11,306,743	109%	10,310,699	91%	8,110,799	79%

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート

2024年10月 第31号



パラグアイの子どもたちに90台を贈呈へ

2024年6月

一か月遅れで、車椅子が無事、パラグアイに届きました

2024年3月26日、パラグアイ向け90台の車椅子を積載したコンテナ船が東京港を出ました。目的地のパラグアイ・アスンシオンには5月22日ごろに到着する予定でしたが、実際には一か月遅れの6月27日に到着しました。車椅子は、早速アスンシオン・ピラモラ・ライオンズクラブの手によってパラグアイの子どもたちに届けられ、その様子を報告する写真などが届きました。パラグアイには2022年3月に続いて、今回も90台の車椅子を送ることができました。それは、Ocean Network Express Pte. Ltd. (ONE社) が、海上輸送を無償提供してくださり、資金面では昭島中央ロータリークラブの皆さんから支援を頂戴したことが大きく寄与しています。また、歴代のパラグアイ駐日大使もサポートしてくれています。地球の裏側の子どもたちに車椅子が届けられるのはこうした支援のおかげなのです。



パキスタンの子どもたちに42台を送りました

さくら車いすプロジェクトと一緒に、車椅子、歩行訓練器など42台を未整備で送りました

2023年12月に続いて、6月10日に42台の当会からの子ども用車椅子(電動車いす2台を含む)と、さくらプロジェクトからの車椅子を積載した本船が横浜港を出ました。パキスタンのカラチには7月11~14日ごろに到着する見込みです。

今回も、さくらプロジェクトからの要請でパキスタンの「マイルストーン 特別な人のための協会」に送りました。同協会は自ら清掃・整備ができるので、当会からはこれまで通り未整備のまま送りました。これで同国への贈呈台数は261台になりました。



出航に先立って、コンテナへの積み込みは、坂東市で6月18日に行われました。写真は那时的様子です。なお、場所が遠いことから当会からの出席者はありませんでした



フィリピンの子どもたちに、車椅子、バギーなど83台を送りました

車椅子52台、バギー10台、歩行訓練器10台、立位訓練器5台、座位保持装置など83台を送りました

2024年6月17日、フィリピンのパートナーであるJVR財団(Jesus V. Del Rosario Foundation)に向けた車椅子等83台を積載した本船が東京港を出ました。車椅子以外にも各種の機器を送っています。送り先のパートナーである同財団は、フィリピン国内の様々な施設にその機器を送ることができます。障がいのある子どもたちにとって必需品である各種訓練機器は貴重なものです。こうした機器を送ることができて、うれしく思います。必ず、現地の子どもの役に立ってくれることでしょう。



フォークリフトでコンテナに車椅子を積み込みます。森田会長が最後に「シール」と呼ばれるもので封印をしました。

海外に 子ども用 車椅子を送る会



活動
レポート
2025年3月 第32号



モンゴルの子どもたちに107台を贈呈へ

～ 初めて当会単独で車椅子や補装具などを送りました。～

2024年11月29日、モンゴルの「Universal Progress 自立生活センター」(代表 Munkhjargal Narankhuu氏) に向けた車椅子や補装具を積載したコンテナ船が東京港を出ました。ウランバートルに着くのは2025年2～3月末の見込みでしたが、発送当初の見込みより早く1月末にはウランバートルに到着しました。通関などの手伝いをしてくれたのは、JICA海外協力隊員のOさんです。当会が、単独でモンゴルへ車椅子を送るのは今回が初めてです。同氏のお力添えで無事通関を果たすことができました。

今後は、子どもたちや、施設、病院等への配分を決めて、5つの地方に送ります。既に贈呈式の日程は決まっています、4月18日開催予定の式典には当会のメンバーと昭島中央ロータリークラブの有志の皆さんが出席する予定です。同ロータリークラブは、今回のモンゴルプロジェクトに関して金銭面や車椅子の清掃・整備活動でも支援していただいています。



日本で...

モンゴル向け107台の車椅子等をコンテナに積み込みます。最後に、森田会長が盗難防止用の「シール」で扉を封印しました。



現地で...

コンテナからの荷下ろしは、厳寒のマイナス30度の環境の中で行われました。現地の多くの支援者により、倉庫の確保と荷下ろし作業が行われました。改めて、同国への送付は暖かい季節に行うことが大切だと実感しました。車椅子は、この倉庫で4月18日の贈呈式を待ちます。



戦争で苦しむウクライナの子どもたちに15台を送りました。

～ 在日ウクライナ大使館手配のコンテナで様々な支援物資と一緒に車椅子を送りました。～

ウクライナの慈善団体「Misto Dobra」(英語でCity of Goodness)のアンバサダーだという東京在住のウクライナ人女性から、2024年8月にメールが届きました。10月にウクライナ大使館が手配するコンテナがあり、そこに車椅子、リハビリ用具を入れてほしいとのことで、臨時の例会を開催して車椅子等を準備しました。

贈呈先であるMisto Dobraは、ウクライナ西部に位置する都市チェルニウツィーに拠点があり、困難な生活環境に置かれている女性や子ども、暴力に苦しんでいる家族、緩和治療やリハビリテーションを必要とする子どもたちを保護し、複合的な支援を行う

場所として2016年に設立されました。現在は、戦争により疎開を余儀なくされた子どもたちの支援も行っています。300人ほどがその施設で暮らしています。同組織は、国家からの支援を受けていません。避難所の設立や、子どもの世話など最も低い立場にあるウクライナ人の貧困と不安の克服という問題の解決に関わりたいと願う、思いやりのある人々の資金だけで運営されています。(アンバサダーの説明から)

当会からの車椅子15台と日本全国からのウクライナ向けの多くの支援物資を積載したコンテナ船は、12月31日に東京港を出ました。車椅子などは、Misto Dobraに3月末頃に到着する予定です。



急な声掛けにも関わらず「ウクライナ支援」と聞いて皆さんが集まってくれました。目標の15台の整備をどうにかその日に終えることができました。

海外に子ども用車椅子を送る会



日本全国から集まったウクライナ支援物資をコンテナに積み込みました。当会からの車椅子は、木箱に収められています。無駄なスペースは極力避けたいので荷物の大きさとスペースを正確に計測しながら積み込みをしていました。



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

www.kaigaikurumaisu.org